

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201348		
法人名	(有)グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームかいぜ	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市皆瀬町 270-12		
自己評価作成日	2020年8月24日	評価結果市町村受理日	2020年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年10月12日	評価確定日	2020年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様は地域行事への参加やボランティアの方や保育園の園児さんたちと定期的に交流をもち楽しく穏やかに過ごされています。コロナ禍のなか入居者や家族の皆さんの希望に添って面会は工夫しながら出来る範囲で行っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昭和30年代から地域住民の診療をされてこられた神谷医院の3階を改装し、2002年1月“グループホームかいぜ”が開設された。院長先生や看護師と24時間体制の医療連携ができ、入居者や家族の安心になっている。終末期ケアも行われ、家族と一緒に誠心誠意のケアが行われている。施設長は薬剤師・介護支援専門員であり、何があっても、「何とか出来るでしょう」と言って下さり、職員は日々相談しやすい環境が作られている。院長先生・施設長・管理者を含め、職員全員で入居者の事を思い、入居者の生活歴や有する能力等を丁寧に把握し、日々の生活が穏やかで、笑顔で明るく過ごせるように努めてこられた。ご本人の不安や混乱も受け止め、様々な解決策を模索されており、入居後次第に穏やかにいられる方も多い。前回の外部評価以降、1階玄関の周囲にプランターを置き、ナス・キュウリ・ピーマン等を育てており、入居者も成長を楽しみにされている。今後も入居者の方々から梅干し作り等を教えて頂き、更なるお力を発揮して頂く予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は常に理念を共有して毎日のケアにつなげている	理念は「笑顔で明るく自分らしい生活を送る為の支援を致します。一人ひとりの人格・個性を尊重し支援いたします。地域に根付いた支援を目指します」であり、コロナ禍でホームで過ごす時間が多い中でも笑顔で明るい生活が送れるよう、職員全員でアイデアを出し合い、日々実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には必ず参加し日常的に交流出来る様に努力している。今年はこちらの禍により町内行事が中止になったため参加交流が減っている	コロナ前は「つんの一で歩行ラリー」に参加したり、夏祭りや公民館祭りに参加し、作品を出展されていた。中学生や高校生の訪問もあり、お話をレク等と一緒に、クリスマス会や敬老会ではハーモニカ演奏やワラダンス等を楽しまれた。2020年度も園児作成の七夕飾りを先生が届けて下さった。	お寺の住職によるハルシターの上映会(なむなむ会)が恒例で、保育園児も一緒にホームで楽しんでいた。コロナ禍においても地域交流が途絶えないよう、お祭りの映像を流したり、ビデオ交流等の方法を検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々が訪問された時や行事等の時日常的な会話の中で認知症の方を理解して頂けるような話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの状況を報告し意見を頂きサービスの向上につなげる努力をしている	コロナ禍で、2020年4月以降は文章を配布しており、今後も電話等で意見を頂く予定である。コロナ前は、運営推進会議で地域の課題(買物・ゴミ出し等)を検討し、地域に必要なもの(移動販売やボランティア等)の情報交換を行うと共に、外部評価結果も報告し、ご意見を頂いていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の担当者と推進会議以外でも連絡取り相談をするようにしている。福祉課の担当の方とも連絡を取り合っている	福祉課の職員の訪問が年2回あり、入居者の情報交換を行ったり、入院の経緯等の共有が行われた。地域包括の方もホームの取り組みを理解して下さり、高齢者詐欺の情報提供をして下さっている。コロナ禍においても運営推進会議開催等のメールがあり、備品の状況確認等もして下さった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて研修や話し合いで正しく理解しており本人の行動を抑制しないケアをしている	運営推進会議の際に身体拘束・虐待防止委員会を行い、「身体拘束と虐待は全く行っていない」事を共有しながら、「子どもの虐待」等のテーマに発展することもあった。身体拘束の内部・外部研修に参加し、職員全員で共有・実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で話し合い入居者の人格を尊重し虐待防止に努めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前後見を利用された方がおられた。今後必要な時は活用できるよう支援体制がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約等については十分に話し合い説明を行い理解して頂いている。介護保険改定等の際も文章にて詳しく説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱を置いている。又ご家族が来られた時には意見要望等を話しやすい様に声掛けをしている	コロナ禍(7月)は土日に限定し、階下の部屋を使っ ての面会や玄関入り口でガラス越しの面会等も行 われた。日々の暮らしぶりを報告し、家族の不安 等を理解するように努めてこられた。コロナ以前は 家族会を行い、敬老会では「サンパーク吉井」で、家 族と一緒に食事やフラダンスを楽しんでいた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や通常の勤務時等に個別に意見を聞き反映させるようにしている	施設長のお人柄もあり、管理者や職員は意見を 伝えやすく、職員が自主的にアイデアを出して下 さる。管理者も職員の勤務希望を把握し、シフト組 みをされており、職員同士の助け合いもある。コロ ナ以前は職員の日帰り旅行も行われ、リフレッ シュできる機会になっていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と接する時間を作りそれぞれの良い所を伸ばし希望を持って楽しく働ける職場作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力に応じて研修会への参加・資格取得の声掛けをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホームと話をしたり合同研修会に参加したり合同での外出を行いサービスの向上に取り組んでいる。今年はコロナ禍で実行できていない		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い話を聞いて本人の状態・様子を把握する。不安・要望を受け止め安心してもらえる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせ・見学の段階から家族ともゆっくり向き合い不安・要望をしっかり受け止め安心してもらえるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって今何が必要なのかを状況や話の中で捉えホームだけにこだわらず他に適したサービスがないか話し合うようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	歌を唄ったり昔の話を聞いたりして共同生活の中での本人らしさを引き出せるような関係づくりを心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は初期の段階から今に至るまで必要時にご家族を交えて話し合いをし本人があんしんして生活出来る様協力体制を整えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに知り合いが来られた時には楽しく過ごして頂ける様環境づくりをしています	コロナ以前は馴染みの店(モール)に洋服を買いに行かれたり、知人の方が1階の医院に受診された後、3階のホームに会いに来て下さっていた。年賀状も届いており、入居者から職員が頼まれて、ポストに手紙の投函に行かれている。家族とテレビ電話をする方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりの性格・他の利用者の方々との関係をしっかりと見極め全員が協力し助け合って楽しく生活出来る様に努めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	已むおえない事情によりサービスが終了した場合も出来る限り相談にのり不安・心配が少なくなるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で尋ねながら把握に努めている。困難な方の場合には家族の話や本人の状況を確認しながら本人本位に検討している	リビングで団欒している時や入浴時、日々の会話や活動を通して、思いの把握に努めている。センター方式を活用し、以前のお仕事や昔好きだった事、思い等を伺い、「家族に会いたい」「できることがあったら手伝うよ」「〇〇を買ってほしい」等の思いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と入居前から話し合い入居後は更に今までの生活状況、経過等を把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の状況、心身状態得意な事苦手なこと等は些細な事でもしっかりと記録したり申し送り等で全員理解している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は日常生活の中で家族には面会時に意見や気持ちをお尋ねしケアプランに取り入れる様にしている	主治医との担当者会議も行われている。ADL・IADL・認知能力もアセスメントし、「歩けるようになりたい」等、ご本人の要望も記入している。自立支援を大切に、リハビリの視点も強化し、「廊下を歩く」「体操」「洗濯物たたみ」「テーブル拭き」等も計画に盛り込み、適宜見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日誌にケアプランの結果気付きはチェック表に記入し全職員が見ることが出来情報を共有し実践・見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて本人にとって必要で安心を得られることを最優先し柔軟に対応している		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として出来る事を協力し生活を楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望のかかりつけ医に受診している。受診の時には状況を説明し主治医より指導を受けて利不安・気掛かりなことは相談している又結果は家族に報告している。透析の方は主治医との連絡ノートを活用している	神谷医院がかかりつけ医の方が多く、毎週の往診を受けている。神谷医院は外来専門だが、夜間の体調変化時も院長やホームの看護師に連絡が取れる。家族が他科受診された時は手紙を持参して頂き、受診結果の共有もできている。職員の観察力もあり、早期対応に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の気付き状況は看護師に伝え不安や心配なことはいつでも相談している。心配な時には看護師から主治医に連絡をし適切な診察治療を受けられる体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の時には入院先の関係者と常に連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族にアンケートを行っている又状態に応じてその都度主治医・看護師・家族・ホームで話し合いを行いチームで支援に取り組んでいる。アンケートも状態に応じて取り直している	入居者全員がホームでの看取りを希望されており、24時間体制で医療連携ができています。点滴や酸素吸入等も行われ、透析を受けている方もおられ、透析前後を含めて体調管理が行われている。看取り時は看護師も一緒に夜勤し、親族も交代で泊まれた方もおられ、職員と一緒に誠心誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度看護師に尋ねすべての職員が対応出来る様にしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回火災訓練を行っている。近所の方にも協力をお願いしている。漏電防止を兼ねて月1回電気設備の点検を依頼している	神谷内科と昼夜想定訓練を行っている。2019年3月は消防団OBと一緒に訓練が行われ、自動通報には消防団OBの方も入れさせて頂いている。消防署の方も毎年点検に来て下さり、情報交換されている。災害に備え、非常食用のご飯や水、クッキー、ヘッドライト、ヘルメットと共に、入居者個々の頭巾等も準備している。2020年9月の台風接近時、台風にも備えて夜勤者以外に職員2名が宿泊し、実地訓練が行われた。	訓練後は必ず振り返りを行っている。今後は訓練時の反省点と対策を記録に残すと共に、必要時はマニュアルに追記し、災害時に備える予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者お一人おひとりを敬う事を忘れず「してあげている」と言う気持ちを持つことなくプライドやプライバシーを傷つけないように対応している	事務所に「やさしいことばで～。同じ目線で～。静かに語りかけましょう～」と言う標語を貼り、職員は日々確認している。優しい職員ばかりで、言葉遣いにも留意しており、入居者との会話を楽しまれている。個人情報管理(守秘義務)も行い、「写真掲載の同意書」も頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話や表情・家族の話などから入居者の思いや希望を受け止めそれぞれの気持ちを自然に引き出せるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者のペースを守り一人一人の生活を大切に毎日したいことが出来る様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の個性を尊重し一人ひとりあった支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前のテーブル拭き・お盆拭きをスタッフと一緒にしている誕生会の時には好きなデザートや果物を出すようにしている	プランターで栽培した野菜を収穫し、料理に使われている。朝はホームで、昼夜は下の厨房で作り、日々季節の料理(クリスマスランチ、夕ノ料理等)を楽しむと共に、節句の時期は鯉生菓子・桃カステラを楽しまれた。入居者の方もテーブル拭きやお盆拭き等をして下さっている。	コロナ禍、ホームで過ごす時間も増えている。今後も以前楽しまれていた梅干し作りを含め、入居者の方々が培ってこられたお力を引き出すと共に、「食レク」と称して料理作り等の機会も検討していく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量・食事摂取量を記録している。個人の状態に応じて食べやすく提供している。透析の方には個別に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは出来ない方には介助を行い出来る方は歯磨きをしてもらっている。夕食後は義歯を預かり消毒を行っている。1か月ごとに歯ブラシの交換をしている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で行かれる方は見守りし、出来ない方は声掛けし、トイレでの排泄を支援している	入居直後から排泄のアセスメントを行い、パットの大きさ等の検討もしている。排泄が自立し、布の下着の方もおられ、排泄能力が維持できている方もおられる。ご本人だけに聞こえる声かけを行い、トイレ誘導したり、羞恥心の気持ちを大切に、外で見守る方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分補給や食事に気をつけている。又毎日運動も取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてはいるが希望や状況に合わせてシャワー浴もいつでも出来る様になっている	楽しい会話をしながら誘導している。週2回の入浴であるが、失禁時等は適宜シャワーをされている。座位保持が難しい方はシャワーチェアを使用し、肘掛けと身体の間、職員が持参した浮き輪をクッション代わりに使用している。菖蒲湯や柚子湯、お茶の葉湯も楽しまれ、歌も聞かれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し本人の意思を尊重し自室で過ごされる時間も大切にしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理票を作成し常に確認できるようにしている。薬については資料を見たり看護師に聞いたりして理解するようにしている。変化があった時には主治医に連絡している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランターで野菜を育て皆さん成長を楽しみにされている。ナス・キュウリ・ピーマン・ミニトマト。収穫後は料理に使っている。日記をつけられている方への支援		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそえる様に聞き出すようにしているが、思うように出来ていない。	コロナ禍でも1階の病院受診をされたり、玄関前で栽培する野菜を収穫されている。コロナ以前は季節の花見やドライブを楽しまれ、敬老会では恒例の「サンパーク吉井」に行き、家族と食事やフラダンスを楽しまれたり、五臓の里でユニークな案山子見学をされていた。本好きの方もおられ、コロナ収束後は図書館にお連れできればと考えている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で一人だけ持たれている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯でのやり取りをされている方がおられるので使い方のお手伝いをしている。手紙のやり取りをされている方には投函の手伝いをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は不快や混乱を招かないように工夫し季節の花や常時毎の飾りつけをして居心地良く生活出来る様に工夫している	ホームは建物の3階にあり、リビングから教会のイルミネーションやお寺の桜を眺める事ができる。リビングで過ごされる方が多く、リビングと廊下に複数のソファが置かれ、テレビの音を聞き取れるようにスピーカーを設置している。コロナ感染対策で空気清浄器を増やされたり、絨毯のクリーニングも行われた。換気を行い、カーテンで光の調整もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の箇所箇所に椅子を置きいつでも思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人・ご家族と相談し馴染みの品物を使用してもらい以前の環境に近くなるようにし本人が居心地良く過ごせるようにしている	本好きな方には家族が本を持参して下さり、洗濯物が気になる方には、居室に洗濯物干しを置かれている。ご本人の移動に応じて、ベッドの向きや家具の配置を工夫し、ポータブルの前にはカーテンストを置いている。家族写真や仏壇等、大切なものを持ち込まれている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下から見える位置にご家族の写真を置き自分の部屋と確認できるようにしている方がいる		